

平成 28 年度 第 3 回 施設見学会

1. はじめに

道央技術士委員会では、平成 28 年度 第 3 回施設見学会を 2016 年 11 月 14 日(月)に実施しました。

『小幌駅の状況と周辺の観光資源など』をテーマに、NTT 北海道さんとの共同施設見学会として実施しました。(参加者 10 名、うち道央会員 3 名)

2. 小幌の概要

“日本一の秘境駅” 皆さんご存知でしょうか？

JR 北海道は 2015 年 小幌駅の廃止方針を豊浦町に提示しました。駅を含めた“秘境小幌”を観光産業に育てたい町は、維持管理費負担に加え、人的支援を表明し 2016 年 3 月 平成 28 年度の 1 年間に限り協定を結びました。

小幌駅は、「日本一の秘境駅」と言われ、鉄道ファ

ンの間で脚光を浴び全国的に有名になっています。

3. 小幌駅まで

鉄道ファンであれば、豊浦町または長万部町からワンマン列車で小幌駅へ行く方法が一般的です。

今回は、“秘境小幌”を体験するため、豊浦町のモニターツアーと同様に 国道 37 号⇒林道⇒小幌洞窟⇒小幌駅⇒ JR 乗車⇒礼文華駅のコースとしました。

(1) 林道

車で礼文華トンネル長万部側の駐車場(図-1)まで行き、ここから林道を通り海まで歩きます。

林道は、営林署によって整備されており、非常に歩き易い状況でした。(図-2)



しかし、林道は砂防ダムまで、それ以降は急な沢に沿って降りていくことになります。またマムシが出るそうで長靴や軍手は必需品です。小幌洞窟まで徒歩約20分でした。(図-3)

(2)小幌洞窟

海岸に降りると崖の下に、入口に鳥居がある洞窟があり、中には有名な円空がここで彫ったと言われている「岩屋観音」が祀られています。小幌は、神社と仏教の神仏習合の場所としても貴重だそうです。



図-4 小幌洞窟と岩屋観音堂立札

ただし、小幌の観音像は保存のため現在は、伊達市の善光寺に収蔵されているそうです。(図-4)

小幌洞窟～小幌駅までは崖上を約20分歩きます。

(3)小幌駅

小幌駅周辺は、以前十数軒の漁師さんが定住し、漁期には、100人以上が番屋で定住していました。しかし、1965年を最後に無人となりました。

小幌駅は1987年に正式な駅になる前は「小幌信号所」と呼ばれていました。

小幌駅は豊浦町側の礼文華山トンネルと長万部町



図-5 小幌駅

側の幌内トンネルの「明かり区間」と呼ばれる100mほどの間にホームがある小さな駅です。(図-5)

鉄道ファンが押し寄せる前は、文太郎浜に行く釣客が数人降りるだけでした。全国的に有名になった今では、週末になると数十人の鉄道ファンで狭いホームが混雑するほどだそうです。見学当日も月曜日夕方にもかかわらず、数人のファンが訪れていました。

駅と言っても、駅舎や待合室は無く保線用の小屋と一般乗降客も利用可能なバイオトイレがあるのみです。雨宿りできる所がありません。事前の天候調査と雨具は欠かせません。

(4)小幌仙人

小幌周辺には2007年に亡くなるまで、森の中に自力で小屋を建て、夏は保線の仕事や林道の整備、冬は駅のホームの除雪などを手伝い20年以上暮らしていた「小幌仙人」がいたそうです。

ピリカ浜が見える場所まで足を伸ばしましたが、断崖からの絶景ポイントはすばらしい眺めでした。

4. おわりに

2017年2月21日 豊浦町とJR北海道は、小幌駅の維持管理を4月以降も、豊浦町が実施する協定書を締結しました。2017年4月1日から2018年3月31日の一年間、小幌駅の存続が決まりました。

“秘境小幌”へは、JRで小幌駅に行くのが最適です。小幌駅には東室蘭～長万部間を走る普通列車上下6本が停車します。札幌方面からでは洞爺駅、函館方面からでは長万部駅で特急から乗り換ると比較的容易に行く事ができます。

豊浦町にはホタテ、SPF豚、いちごの食や、快適な温泉施設でくつろげます。また、周辺にはイザベラバードが歩いた山道もあり、小幌駅も含めて北海道の歴史を考える上で貴重な場所です。

みなさん、“秘境 小幌”“小幌駅”を一度訪れてはいかがでしょうか？

最後に。今回の見学会に際しまして、ご協力いただいた豊浦町地方創生推進室 佐藤主幹に心より御礼申し上げます。